

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・ 設置の趣旨および目的等について

平成23年度は、東日本大震災の影響で前期授業開始が2週間遅れたが、8月上旬まで授業を行い前期の授業時間を確保した。後期は当初の学事日程に戻り、設置計画に沿って教育活動を展開することができた。

本学は震災による校舎への大きな被害はなく、学生及び教職員は皆無事であったが、栄養科学部では、保護者の死亡、行方不明、実家の流失などの被災学生が9名おり、これらの学生への経済的支援や心のケアを大学として行った。

平成24年度は、当初の学事日程のとおり開始し、新入生には、入学当初2日間の宿泊研修を実施し、管理栄養士になるまでの過程やその役割などのセミナーを行い、学生一人ひとりの目的意識を高めることができた。また、教員とのコミュニケーションを通して、一人ひとりの学生が新たな環境に適応し、自発的に自分の将来に展望を持ち、目的意識を持って学生生活を送れるように支援することを目的に「コミュニケーションサークル（CC）」を宿泊研修中に編成し、実行に移している。CCについての学生アンケートでは評価が高い。

平成24年度より学外実習のうち、「校外実習（給食の運営）」及び「栄養教育実習」が実施されるため、実習先指導者との齟齬がないよう、校外実習については実習先指導者との懇談会を開催、教育実習は実習先となる盛岡市教育委員及び実習依頼小学校との打ち合わせを平成23年度中に実施し、学生がスムーズに学外実習に取り組めるよう準備を行った。また、平成25年度の開講の臨地実習についても実習先及び県の担当課と事前打ち合わせ協議を行い実習準備に取り組んでいる。

管理栄養士としての目的意識を高め、しっかりとした展望を持続しながら取り組んでいけるよう、正規の教育課程とは別に、「栄養科学特論」として授業時間を設け、「栄養学はおもしろい」、「最新の糖尿病治療と食事」など外部講師を招いて学びの楽しさや教科書にはまだ載らない最新の知見の講演会を開催している。通常の授業の補習講義を含め、単位認定科目ではないが学生は積極的に取り組み効果を上げている。

学生の就職活動に備えて、就職センターを中心に2年次から4年次まで絶え間なくキャリア教育を行っている。

2年生対象の「就職基礎講座」（前期15回）、「就職準備講座」（後期15回）では、コミュニケーション能力アップ講座、SPI対策講座、一般常識講座、文章力養成講座を開催し、キャリアデザインのための知識・技術の習得支援を行っている。

3年生対象の「就職実地講座」（前期15回）、「就職直前講座」（後期15回）では、自己分析講座、インターンシップ講座、SPI試験、エントリーシートの書き方、卒業生就職活動体験談等を開催し、就職活動の支援を行うこととしている。

平成23年末に栄養科学部就職対策委員会で、学生の進路希望調査を実施し、希望する職種や就職先地域を把握した。今後、就職センターと連携し、学生の就職活動を支援していく。

以上のとおり、資格取得を展望した有為な人材養成を図るため努力している。

・ 入学者の受け入れについて

入学試験は、推薦入学試験 1 回、センター試験利用入学試験 2 回、一般入学試験 2 回を計画どおり実施した。志願者は 2 1 6 人で前年度より 5 9 人減少した。志願者が減少したため、入学者確保の観点から歩留まりを低く見込んだところ、9 4 人の入学となり入学定員を超える結果となった。次年度に向けて志願者増となるよう募集活動を行うとともに、入学者の見込み数については慎重に行っていくこととする。なお、教室の面積、マイク設備、実験器具・機器等の施設設備は十分揃っており支障なく授業運営が可能である。また、学生一人ひとりに留意しながら授業を進めることとしている。

・ 教育課程について

管理栄養士養成施設指定申請に係る東北厚生局の指導過程において、専門科目の必修科目として「基礎栄養学実験（1 単位）」1 科目を追加している。

「微生物学」は 2 年次後期で開講する予定であったが、2 年次前期で開講する「食品衛生学」及び「食品衛生学実験」の基礎となる教科であるため、1 年次後期で開講することに変更した。また、「微生物学」は「食品衛生学」（オムニバス）との関連が深いことから、「食品衛生学」担当者と同じ複数の担当者にすることにより、学生の理解が深まるとの考えからオムニバス方式に変更した。

3 年次後期開講としていた「栄養科学研究法」は、学んできた栄養学関連科目を体系的に整理し、研究の意義を理解した上で、卒業研究に入れるよう配置していたが 3 年次後期に卒業研究の準備期間を設けることにより、4 年次の卒業研究にスムーズに進行できるよう 3 年次前期に開講時期を早めた。

3 年次後期開講としていた「地域社会環境と栄養問題」は、地域社会における栄養活動の実践計画・実施・評価を行うことの出来る力を養うことを目標としているが、この目的達成のためには、3 年次開講の「地域栄養活動論」「地域栄養調査と解析」「公衆栄養学」「栄養教育実践論Ⅱ」「栄養教育実習」を履修した後に学ぶ方がより効果的であると考え、4 年次前期に変更することとした。

教養教育科目の「歴史学」、言語のうち、「ドイツ語初級Ⅱ」、「ドイツ語中級Ⅰ」、「ドイツ語中級Ⅱ」、「フランス語初級Ⅰ」、「フランス語初級Ⅱ」「フランス語中級Ⅰ」、「フランス語中級Ⅱ」、「中国語初級Ⅰ」、「中国語初級Ⅱ」、「中国語中級Ⅰ」、「中国語中級Ⅱ」の履修希望者が 0～2 名と少なく、平成 2 4 年度は非開講とした。

その他は計画どおり実施している。

・ 教員配置について

開設時における担当者未定の 3 科目については、いずれも専任教員が担当するため、専任教員採用等設置計画変更書を平成 2 2 年 6 月に提出し、8 月に判定可の審査結果を得、すべての担当者が決定した。

しかし、平成 2 2 年 4 月に就任した「公衆栄養学」等担当の専任教員教授 1 名が、健康上の理由により平成 2 3 年 4 月末をもって退職した。直ちに後任者を公募し、専任教員採用等設置計画変更書を平成 2 3 年 8 月に提出、平成 2 3 年 1 0 月、5 科目すべて判定可の審査結果を得て、平成 2 4 年 4 月 1 日に専任講師 1 名を採用した。科目はいずれも平成 2 4 年度以降の開設科目であり授業への支障は生じていない。

教養教育科目担当の文学部教員の退職等があり、数科目の兼任教員の交代又は兼任教員への変更があった。また、平成24年度海外派遣ボランティアに参加することになった兼任教員がありこの間兼任教員を交代する措置を講じ対応している。

・ 自己点検評価及びFDについて

授業改善のため、毎年度の前期終了時、後期終了時の最終講義にすべての開講科目について、学生に対してアンケート形式の「授業効果調査」を行った。調査結果は、各担当教員にフィードバックし、今年度の授業改善に反映させほか、学生への公開を行うこととしている。

FD活動については、文学部と共同で教授会終了後に全教員対象のFD研修会を年間4回実施している。

栄養科学部独自では、開学時に教員全員参加による1泊2日の宿泊研修を行ない、開学にあたっての教育方針及び学部の教育目標について教員全員の意識統一を図り、学生指導の在り方等について研修した。2年目は、専任教員対象に首都圏の中核大学の教授を講師に招き、管理栄養士国家試験受験対策例についての講演会を開催した。本学が取り組むに当たってたいへん参考となるものであった。また、教員の研究内容について共通認識をもち、教育に反映させることを目的として、基礎系教員が中心となってジャーナルクラブを開催し、抄読や成果の発表など研究力を高める活動を行った。平成23年度は年間14回開催した。

・ 地域貢献について

平成22年度は、第30回盛岡大学公開講座を学部開設記念事業として栄養科学部が担当して開催した。総テーマを「Quality—生命・健康・食—」とし、2日間にわたり教員4名が専門分野について講演した。定員60名に対して延べ150名の市民が参加し、好評であった。

東日本大震災の復興支援活動として、岩手県栄養士会との連携により、被災地に管理栄養士を派遣して、被災者の健康状態、栄養状態の観察、食事等の栄養指導、栄養相談やバランスのとれた食事の提供等の支援を行った。さらに、県内の保健所及び市町村等とも連携し、被災地の避難所における食事提供状況、栄養状況を把握するとともに適正な食事内容や必要な栄養量の確保についての支援活動を行った。

この他、震災直後に臨床栄養学関係担当教員が、研究活動のフィールドとしていた宮城県石巻湾内の島で、島内の福祉施設入所者に対する給食支援活動を行った。その支援活動について当該教員は災害からの復興をテーマとして開講した第31回盛岡大学公開講座において講演している。

岩手県滝沢村が募集した「たきざわGP」は2年目となり、平成22年度に採択された事業が完結し、「滝沢村民の健康増進に関する調査報告書」の発刊とともに村内での報告会の実施により、村民の健康増進の意識啓発に貢献した。平成23年度は、前年度に引き続き「滝沢村高齢者の肥満改善を目的とした保健指導プログラムの構築」事業が採択され、学連携活性化事業補助金の交付を受けて、事業を展開した。

・ 施設設備について

図書等を含め、計画どおり整備し供用している。なお、実験室関係の修繕の必要となった機器備品については修繕又は交換等を行い授業に支障なく円滑に運営できるよ

う改善に努めている。

以上、栄養科学部は開設して2年が経過したが、全体としては着実に設置計画を遂行している。3年目の志願者が前年に比べ59名減少したが、定員以上に入学者を確保できたことは、地域からも認められてきている証と言える。

3年次は、後期より就職活動を迎える。地域に根ざした教育活動の中で、地域貢献のできる人材の育成に努め、学生の目的達成のため就職活動の支援にも努めたい。

今後も、設置計画の教育内容を確実に実行するとともに、自己点検評価、FD活動、地域貢献などの充実を図っていく。